

# 富士通のあゆみ



(1935~1961)

当時親会社であった富士電機製造(株)のマークを使用。富士電機製造(株)の社名の由来である、古河の「F」とドイツのシーメンス社の「S」を組み合わせたものである。

<「富士電機製造(株)」の社名の由来>  
古河電気工業(株)とドイツのシーメンス社が、発電機・電動機国産化のため、1923年に富士電機製造(株)を設立。社名の由来は、「古河」の「F」と、「シーメンス」(ドイツ語読み)の「S」を取った「FJ」(富士)から。(日本一の富士山をイメージ)

## 事業展開

1935~

1935年

- 6月20日 ● 富士電機製造(株) (現 富士電機(株)) の電話部所管業務を分離し、富士通信機製造(株)設立。(資本金300万円、社員700人。初代社長に富士電機吉村萬治郎社長が就任)



'38年

- 9月 ● 川崎市中原に新工場竣工(現在の川崎工場所在地)



'42年

- 4月 ● 須坂工場開設(電話機の量産工場として開設)

'44年

- 11月 ● (株)金岩工作所(現 富士通フロンテック(株)) がグループ会社となる

'46年

- 7月 ● 販売機関として東京出張所を開設

'47年

- 5月 ● 河津無線電機(株) (現 富士通テレコムネットワークス(株)) がグループ会社となる

'49年

- 5月 ● 新株式を東京証券取引所再開と同時に上場

'52年

- 4月 ● 独シーメンス社との技術提携復活

'57年

- 6月 ● 新光電気工業(株)がグループ会社となる

'59年

- 11月 ● 小山工場開設(無線通信機器の量産工場として開設)

## 製品展開

1937年

- 8月 ● 通信省の搬送装置指定製造所となる
- 搬送装置第1号製品を南満州鉄道(株)に納入

'40年

- 日本初の国産自動交換方式T形交換機を奈良局に納入

'45年

- 12月 ● 富士形電話機、通信院より正式採用



'50年

- 8月 ● 電話機月産5,000台目標を達成

'51年

- 5月 ● 電気計算機の製造開始。東京都庁に統計分類集計機を納入

'53年

- 8月 ● 無線通信機器の製造開始(川崎工場)



'54年

- 4月 ● 回路部品の製造開始(川崎工場)

- 10月 ● 日本初のリレー式自動計算機「FACOM100」完成

'56年

- 12月 ● 六甲局にクロスバ交換機第1号機を納入

- 日本初の工作機械自動制御装置を完成

'57年

- 10月 ● パラメトロンを素子とする電子計算機の製作開始

'58年

- 9月 ● パラメトロン式電子計算機試作第1号機「FACOM200」完成

- 10月 ● 日比谷の朝日生命館に日本初の電算機センター開設

'59年

- 4月 ● パラメトロン式電子計算機「FACOM212」第1号機を日本電子工業振興協会へ納入



## 事業展開

1960~

'60年

- 2月 ● 川崎にトランジスタ工場竣工、量産に入る

12月 ● 大阪証券取引所に上場

'61年

- 3月 ● 工業部制を採用、通信工業部、電子工業部を設置(通信機器の需要増加と電子工業の急速な発展に対応するため従来の機構を刷新)

10月 ● 名古屋証券取引所に上場

'62年

- 5月 ● 富士通研究所を社内組織として設置

11月 ● 正式英文社名を「FUJITSU LIMITED」に決定

'66年

- 3月 ● 長野工場開設(電子計算機の専用量産工場として開設)

8月 ● 川崎にIC工場完成、量産開始

'67年

- 3月 ● 初の海外駐在員事務所となるニューヨーク駐在員事務所を開設

6月 ● 富士通株式会社に社名変更

9月 ● 会津工場開設(音響機器と半導体部品の量産工場として開設)

'68年

- 7月 ● 平山電機商事(株) (現 富士通エレクトロニクス(株)) がグループ会社となる

- 当社初の海外現地法人 Fujitsu California Inc. (現 Fujitsu America, Inc.) 設立

8月 ● 神戸工業(株)を合併

- 明石工場開設(神戸工業(株)より承継)

9月 ● 石井通信工業(株) (現 (株)富士通マーケティング) がグループ会社となる

10月 ● 南多摩工場開設(データ通信用端末量産工場として開設)

11月 ● (株)富士通研究所設立(株式会社として分離独立)

## 製品展開

'60年

- 3月 ● 日本初の制御用電子計算機完成



'61年

- 2月 ● トランジスタ式大型汎用電子計算機「FACOM222」完成

'63年

- 10月 ● 日本初の電算機輸出となるパラメトロン式電子計算機「FACOM212」マニラへ出荷

'64年

- 4月 ● 日本初のデータ通信システム「FACOM323」完成、日興証券(株)へ納入

'65年

- 9月 ● 量産型大型汎用機「FACOM230シリーズ」完成(同シリーズの最小型機「FACOM230-10」は当初5年間で1,000台受注を達成、国産ベストセラー機種)



'66年

- 10月 ● 世界初のIC化数値制御装置「FANUC260」発表

'68年

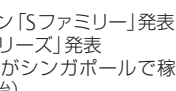
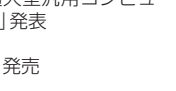
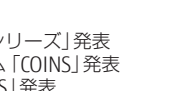
- 11月 ● 日本初の純国産オンライン預金システムが(株)第一銀行で稼働



(1962~1971)

現社名である「富士通」という名称を用いたマークを制定。コンピュータの製造が本格的にはじまり、社内機構を改革。「通信工業部」と「電子工業部」の二部制から、「通信と電子の」というキャッチフレーズをマークの上に記載。

	事業展開	製品展開	
<p><b>1970 ~</b></p>  <p>(1972~1988)</p> <p>青色の「平和」、赤色の「情熱」、白色の「純潔」というコンセプトのもとマークを制定。</p>	<p>'71年</p> <p>10月 ● (株)日立製作所と電算機分野で業務提携。3.5世代以降の新機種開発で協調</p> <p>12月 ● 米アムダール社に資本参加</p> <p>'72年</p> <p>1月 ● ビジネスリーダーの育成を目指し、ハワイに「日米経営科学研究所 (JAIMS)」を設立</p> <p>4月 ● 富士電気化学(株) (現 FDK(株)) がグループ会社となる</p> <p>5月 ● 富士通ファナック(株) (現 ファナック(株)) 設立 (計算制御部門を分離独立)</p> <p>10月 ● 富士通テン(株) (現 (株)デンソーテン) 設立 (ラジオ部門を分離独立)</p> <p>'73年</p> <p>7月 ● 富士電機製造(株) (現 富士電機(株)) が松下グループ3社とともに、パナファコム(株) (現 (株)PFU) 設立</p> <p>'74年</p> <p>7月 ● 機構改革、事業部制を導入</p> <p>● 熊谷工場開設 (熊谷電子(株)より承継)</p> <p>'75年</p> <p>6月 ● 日産コンピュータ(株) (現 (株)富士通ビー・エス・シー) がグループ会社となる</p> <p>'76年</p> <p>1月 ● タケダ理研工業(株) (現 (株)アドバンテスト) に資本参加</p> <p>4月 ● フランクフルト証券取引所に上場</p> <p>8月 ● 沼津工場開設 (大型コンピュータの製造工場)</p> <p>'77年</p> <p>11月 ● 富士通エフ・アイ・ピー(株)を設立</p> <p>'78年</p> <p>4月 ● 独シーメンス社と電算機分野での協力関係確立に合意</p> <p>'79年</p> <p>4月 ● (株)富士通第一システムエンジニアリング (現 富士通) 設立 (以降SE会社を各地に展開)</p>	<p>'72年</p> <p>9月 ● 日本最大規模の公害監視システムが川崎市で稼働</p> <p>'73年</p> <p>8月 ● 仮想記憶方式採用「FACOM230 "8" シリーズ」発表</p> <p>'74年</p> <p>8月 ● オフィスコンピュータ「FACOM V0」発表。当社初のソフトウェアのアンバンドリング (ソフトとハードの価格分離) を実施</p> <p>11月 ● (株)日立製作所と共同で汎用コンピュータ「FACOM Mシリーズ」発表 (大型コンピュータの新シリーズ。「M-190」はLSIで構成された世界最大・最高速のコンピュータ)</p> <p>'77年</p> <p>1月 ● オフィスコンピュータ「FACOM V シリーズ」発表</p> <p>5月 ● オンライントランザクション処理基盤「AIM (Advanced Information Manager)」発表</p> <p>● FNA (富士通ネットワークアーキテクチャ) 発表</p> <p>8月 ● 日本初のスーパーコンピュータ「FACOM230-75APU」完成</p> <p>'78年</p> <p>2月 ● 64KビットRAMを世界で初めて製品化</p> <p>'79年</p> <p>4月 ● 富士通日本語情報システム「JEF」発表</p>	
		事業展開	製品展開
	<p><b>1980 ~</b></p>  <p>(1989~)</p> <p>国際化に伴い、現在の英字表記のシンボルマークとなる。「FUJITSU」の中央に位置する「j」「i」の上部のマーク (インフィニティマーク) は、「地球」と「太陽」をシンボライズし、宇宙への広がりや無限の可能性を表現。FUJITSU レッド (赤色) による、チャレンジ、人間的、エキサイティングな企業を象徴。</p>	<p>'80年</p> <p>3月 ● 1979年度の電算機部門の売上で日本IBMを抜き、業界トップに</p> <p>8月 ● 岩手工場開設 (会津工場より量産メモリの製造を移管)</p> <p>'81年</p> <p>6月 ● ソフトウェア・サービスビジネスの拡大に対応し、システム本部を新設</p> <p>● 通信、電子の工業部制を廃止。営業部門を一体化</p> <p>● 米カリフォルニア州にサンディエゴ工場開設 (半導体の現地生産を開始)</p> <p>10月 ● ロンドン証券取引所に上場</p> <p>12月 ● 英ICL社と電子計算機の技術援助で提携</p> <p>'83年</p> <p>9月 ● チューリッヒ、バーゼル、ジュネーブの各証券取引所 (現在は、各証券取引所をスイス証券取引所に統合) に上場</p> <p>'84年</p> <p>9月 ● 三重工場開設 (大容量メモリ、大規模ゲートアレイなどの開発試作、量産工場)</p> <p>10月 ● 若松工場開設 (カスタムLSIの量産試作工場) (株)ゼネラル (現 (株)富士通ゼネラル) に資本参加</p> <p>'86年</p> <p>2月 ● 日商岩井(株)と共同出資でパソコン通信会社(株)エヌ・アイ・エフ (現 ニフティ(株)) 設立</p> <p>'87年</p> <p>4月 ● ユーザック電子工業(株)とパナファコム(株)を合併し(株)PFU設立</p>	<p>'80年</p> <p>5月 ● 日本語ワードプロセッサ「OASYS 100」発表</p> <p>6月 ● (株)富士通研究所が超高速半導体素子HEMTの開発に成功</p> <p>8月 ● 110番通信指令システムの1号機を警視庁に納入</p> <p>'81年</p> <p>5月 ● 超大型コンピュータ「FACOM M-380/382」発表 (LSIコンピュータの第2世代機)</p> <p>● パーソナルコンピュータ「FM-8」(世界初64KビットLSIメモリ搭載) 発表</p> <p>10月 ● ビジネス用パーソナルコンピュータ「FACOM9450」発表</p> <p>'82年</p> <p>7月 ● スーパーコンピュータ「FACOM VP-200/T00」発表</p> <p>'83年</p> <p>3月 ● 世界初のCMOS256KビットEPROM開発</p> <p>5月 ● 国産初のSQLベースのデータベースをサポートした商用製品「AIM/RDB」発売</p> <p>'84年</p> <p>5月 ● オフィスコンピュータ「FACOM Kシリーズ」発表</p> <p>9月 ● 企業情報通信ネットワークシステム「COINS」発表</p> <p>● 英日・日英自動翻訳システム「ATLAS」発表</p> <p>'85年</p> <p>2月 ● JEFとOASYSを結合し、国語COBOLを開発、発表</p> <p>● 1MビットDRAMを開発</p> <p>4月 ● 富士通VANサービス「FENICS」提供開始</p> <p>11月 ● ECL LSIを採用した世界最高速の超大型汎用コンピュータ「FACOM M-780 モデルグループ」発表</p> <p>'87年</p> <p>1月 ● ビジネスパソコン「FM Rシリーズ」発売</p> <p>5月 ● 「SDAS総合開発システム」確立</p> <p>7月 ● 人工知能の新体系「KSA知識情報システム」確立</p> <p>'88年</p> <p>3月 ● 富士通ISDNシステムを提供開始</p> <p>8月 ● エンジニアリングワークステーション「Sファミリー」発表</p> <p>12月 ● スーパーコンピュータ「VP2000シリーズ」発表</p> <p>● デジタル電子交換機「FETEX-150」がシンガポールで稼働 (世界初のISDN商用サービス開始)</p>



	事業展開	製品展開
	<p>'89年</p> <p>3月 ● 保守部門の一部を分離独立し、富士通カスタマエンジニアリング(株)(現(株)富士通エフサス)設立</p> <p>6月 ● シンボルマークとロゴタイプを一新</p>	<p>'89年</p> <p>2月 ● 32ビット・ハイパーメディア・パソコン「FM TOWNS」発表 </p>
1990～	<p>'90年</p> <p>11月 ● 英ICL社へ80%資本参加</p> <p>'93年</p> <p>4月 ● 米AMD社とフラッシュメモリ製造の合併会社富士通エイ・エム・ディ・セミコンダクタ(株)(2003年7月にFASL LLC, 現 米サイプレス セミコンダクタ社)設立</p> <p>'95年</p> <p>12月 ● アウトソーシングサービス拠点、富士通館林システムセンター(現 館林データセンター)開設</p> <p>'96年</p> <p>2月 ● 米向ナパソコンビジネス会社 Fujitsu PC Corporation (のち Fujitsu Computer Systems Corp.) 設立</p> <p>'97年</p> <p>3月 ● アジアでのソリューションビジネス強化に向け、統括会社 Fujitsu Asia Pte. Ltd. 設立</p> <p>5月 ● IBMと富士通、米国仲裁協会(AAA)における仲裁終了に合意</p> <p>9月 ● 米アムダール社を100%子会社化</p> <p>10月 ● 化合物半導体事業の開発・製造・販売を富士通カンタムデバイス(株)に集約</p> <p>11月 ● アウトソーシングサービス拠点、富士通明石システムセンター開設(現 明石データセンター)(東西2大センターによる体制を確立)</p> <p>'98年</p> <p>10月 ● 英ICL社を100%子会社化</p> <p>'99年</p> <p>2月 ● FCRAMの共同開発で(株)東芝と提携</p> <p>3月 ● ニフティ(株)を100%子会社化</p> <p>4月 ● (株)日立製作所とプラズマ・ディスプレイ・パネル事業の合併会社富士通日立プラズマディスプレイ(株)設立</p> <p>6月 ● 国内初、環境会計制度の導入</p> <p>7月 ● 事業戦略“Everything on the Internet”を発表</p> <p>10月 ● 独シーメンス社との合併により Fujitsu Siemens Computers (Holding) B.V. 設立(現 Fujitsu Technology Solutions (Holding) B.V.)</p>	<p>'90年</p> <p>8月 ● 世界初のUNIX System V Release 4準拠のメインフレームOS「UXP/M」発表 </p> <p>9月 ● 世界最高速の超大型汎用コンピュータ「M-1800モデルグループ」発表</p> <p>'91年</p> <p>4月 ● 当社初の携帯電話「ムーバF」発売 </p> <p>5月 ● UNIXコンピュータ「DS/90 7000シリーズ」発表</p> <p>● 1990年代の情報システム構築新コンセプト「MESSAGE 90s」発表</p> <p>'92年</p> <p>6月 ● 情報・通信システムの総合サービス体系「PROPOSE」発表</p> <p>9月 ● 世界最高速のベクトルパラレル型スーパーコンピュータ「VPP500シリーズ」発表</p> <p>'93年</p> <p>1月 ● 米国の電話会社よりB-ISDN用交換機のサプライヤとして選定され、世界で初めて商用ATM交換機「FETEX-150」を受注</p> <p>10月 ● Windows時代に対応する国際標準機パソコン「FMVシリーズ」発表 </p> <p>11月 ● スパコン「数値風洞システム」(NWT)*が世界初100GFlops超え *航空宇宙技術研究所(現JAXA)と富士通が共同で開発</p> <p>'94年</p> <p>6月 ● 商用インターネットサービス「InfoWeb」提供開始(1999年10月に@niftyに統合)</p> <p>10月 ● ソフトを満載したオールインワンデスクトップパソコン「FMV-DESKPOWER」発売</p> <p>'95年</p> <p>2月 ● 世界最高速のデータ転送を実現した「アレイディスクサブシステム(F6495)」発表 </p> <p>● B5ファイルサイズの高性能オールインワンノートブックパソコン「FMV-BIBLO」発売</p> <p>3月 ● 新サービス体系「CS(クライアントサーバ)デスクトップサービス」発表</p> <p>5月 ● 世界最高速のCMOS汎用プロセッサと並列処理技術を採用した新グローバルサーバ「GS8000シリーズ」発表</p> <p>10月 ● マルチメディア時代に対応した新データベース「SymfWARE」発表</p> <p>'96年</p> <p>1月 ● グローバルサーバ「GS8600シリーズ」発表</p> <p>12月 ● パソコンサーバシリーズ「GRANPOWER5000シリーズ」発表</p> <p>'97年</p> <p>5月 ● ネットワークコンピューティング対応の新ビジネスサーバ「GRANPOWER6000シリーズ」発表</p> <p>7月 ● 世界最小・最軽量の携帯電話「デジタル・ムーバF203 HYPER」発売 </p> <p>11月 ● ネットワークコンピューティング体系「SOLUTIONVISION」確立</p> <p>'98年</p> <p>1月 ● 世界最高速CMOS大型汎用機「GS8800モデルグループ」発表</p> <p>6月 ● 分散システムの統合運用管理ソフトウェア「Systemwalker」発表</p> <p>7月 ● NAND型フラッシュメモリ開発</p> <p>11月 ● 基本ソフトウェアにSolarisを採用した自社製チップ搭載UNIXサーバ「GP7000Fファミリー」発表</p> <p>● ソニー(株)と1.3GBの3.5型光磁気ディスクシステム「GIGAMO」の共同開発を発表</p> <p>'99年</p> <p>2月 ● iモードサービス対応1号携帯電話「デジタルムーバF501i HYPER」発売</p> <p>10月 ● 世界初、1テラビット光波長多重の1万キロメートル伝送実験に成功</p> <p>● 銅配線CMOS汎用プロセッサ搭載の大型汎用機「GS8900モデルグループ」発表</p> <p>12月 ● 日本初、カラー液晶搭載携帯電話「デジタルムーバF502i HYPER」発売</p>

2000～		事業展開	製品展開
2000～	'00年	9月 ● 日産デジタルプロセス(株) (現 デジタルプロセス(株)) を100%子会社化 12月 ● 国内初の電子行政モデルルーム「netCommunity」開設	'00年 5月 ● グローバルビジネスの展開に向けたサーバ戦略を発表「PRIMERGY」、「PRIMEPOWER」にブランドを全世界で統一 9月 ● 世界初の高速64kbpsワイヤレスデータ通信機能を標準内蔵したモバイルパソコン「FMV-BIBLO LOOX (ルークス)」発売 12月 ● 世界最大容量の1.76Tbps光波長多重伝送システムを開発
	'01年		11月 ● ユニバーサルデザイン採用の携帯電話「ムーバF671i (らくらくホンII)」発売
	'02年	1月 ● The FUJITSU Way (現FUJITSU Way) を制定 3月 ● 取締役会改革、執行役制およびビジネスグループ制の導入を表明 ● あきる野テクノロジーセンターにて、世界で初めて90ナノメートルLSI量産試作を開始 4月 ● (株)富士通ITプロダクツ設立 ● 英ICL社をFujitsu Services Holdings PLC、米DMR社をFujitsu Consulting Holdings, Inc. (現 Fujitsu America, Inc.)、米アムダール社をFujitsu IT Holdings, Inc.へ社名変更 6月 ● 米マイクロソフト社とグローバル提携を強化 ● SoCソリューションを核とした半導体事業分野について(株)東芝と提携 10月 ● 大規模基幹システムへの適用を目指したLinuxによる事業展開を開始	'02年 2月 ● ストレージシステム製品群の名称をグローバルブランドとして「ETERNUS」に統一 ● 世界最高速の大型汎用コンピュータ「GS21 600モデルグループ」発売 ● プラットフォームコンセプトである「TRIOLE」確立 6月 ● ミドルウェア商品のブランドイメージ統一 ● Interstage ● Symfaware ● Systemwalker ● 世界初、環境負荷の少ない植物系素材プラスチック部品をノートパソコン「FMV-BIBLO」に採用 8月 ● スカラ型スパコン「PRIMEPOWER HPC2500」発売 11月 ● ペン入力タブレットPC「FMV-STYLISTIC」発売 ● 自社回収したパソコンの筐体樹脂をノートパソコンに再生利用
	'03年	1月 ● 米インテル社とミッションクリティカル領域向け新サーバの開発で協業 ● 液晶ディスプレイ分野で台湾AUO社と提携 5月 ● 米レッドハット社とミッションクリティカルなLinuxソリューション分野でグローバル提携 7月 ● 米AMD社とフラッシュメモリ事業の合併会社FASL LLC (現 米サイプレス セミコンダクタ社) 設立 10月 ● Fujitsu IT Holdings, Inc.などの北米の子会社を統合し、Fujitsu Computer Systems Corporation 設立 11月 ● ソリューションビジネスの戦略拠点として富士通ソリューションスクエアを開設	'03年 1月 ● 第3世代携帯電話端末市場本格参入「FOMA F2051」発売 5月 ● グローバルサーバ「GS21」ラインナップ完成 6月 ● ストラクチャードASIC「AccelArray」発売 7月 ● 90ナノCMOSテクノロジーのLSI発売 ● 日本初、指紋センサー搭載の携帯電話「ムーバ F505i」発売 11月 ● 超並列シミュレーションサーバ「BioServer」の実証実験開始 ● デジタルAV機器向け「FR-Vソリューション・パッケージ」提供開始 12月 ● 「オンデマンドアウトソーシングサービス」提供開始 ● 総合システム開発体系「SDAS」刷新
	'04年	4月 ● 全社一括で環境認証ISO14001を取得 ● 住友電気工業(株)と富士通カンタムデバイス(株)を統合し、ユーティリティデバイス(株)を設立 5月 ● 富士通サポートアンドサービス(株) (現 (株)富士通エフサス) を100%子会社化 6月 ● マーケット別のビジネスグループ体制に組織再編。営業とSEの一体化 ● 米マイクロソフト社とミッションクリティカル領域のオープンスタンダードプラットフォーム確立に向けてグローバル提携 ● 米サン・マイクロシステムズ社と提携関係を拡大。次期SPARC/Solarisサーバの開発で協業 7月 ● TDK(株)と磁気ディスク装置ヘッド分野で提携、合併会社設立 8月 ● 最先端SoC設計環境構築に向け、日本ケイデンス・デザイン・システムズ社とグローバルなパートナー契約を締結 12月 ● 米シスコ社とルータ・スイッチ分野で戦略提携	'04年 1月 ● 大画面22型ワイド液晶を採用したシアタースタイルPC「FMV-DESKPOWER Tシリーズ」発売 3月 ● 米ラティス社から最先端半導体製品の製造を受託 6月 ● 世界初UNIXサーバに90ナノメートル半導体技術を採用した「PRIMEPOWER」発売 8月 ● 世界初のiモードFeliCa対応携帯電話「FOMA F900iC」発売 9月 ● 大画面17型液晶を搭載したエンターテインメントノートブックPC「FMV-BIBLO NXシリーズ」発売 10月 ● 世界最大容量の1MビットFRAM発売

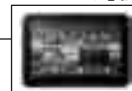
2005～		事業展開	製品展開
2005～	'05年	3月 ● 富士通日立プラズマディスプレイ(株)株式会社を(株)日立製作所へ一部譲渡する契約を締結 4月 ● 液晶デバイス事業をシャープ(株)へ譲渡する契約を締結 ● 三重工場内で300mmウェーハ対応ロジックLSI工場を稼働 5月 ● 国内連結子会社でISO14001の一括認証を取得	'05年 1月 ● 世界初、植物系素材の大型プラスチック筐体をノートパソコンに採用 4月 ● 基幹IAサーバ「PRIMEQUEST」発売 ● PC「FMVシンクライアント」発売 ● 世界初、WiMAX対応の基地局、端末双方で使える高集積化LSI開発 5月 ● 米シスコ社との戦略提携に基づき、次世代ハイエンドルータ「Fujitsu and Cisco CRS-1」発売 6月 ● 非接触型手のひら静脈認証装置「Palm Secure」の世界展開を開始 ● 日本初次世代車載ネットワーク「FlexRay スタータキット」発売 7月 ● 日本初UHF帯RFID関連商品を発売 11月 ● 最新映像圧縮方式H.264に対応したプロセッサを発売
	'06年	3月 ● 海外グループ会社を含めたISO14001グローバル統合認証を取得	'06年 4月 ● パソコンで初めて「Blu-ray Discドライブ」を搭載した「FMV-DESKPOWERシリーズ」発売



事業展開	製品展開
<p>8月 ● 品質保証部門の一部と、富士通分析ラボ(株)を再編し富士通クオリティ・ラボ(株)を設立</p> <p>9月 ● アウトソーシングサービスでITサービスマネジメントシステム国際認証規格「ISO20000」取得</p> <p>10月 ● 独SAP AGとサービス分野でグローバル協業強化</p>	<p>5月 ● 中堅企業向け統合ERPソリューション「GLOVIA smart」提供開始</p> <p>10月 ● インフラ最適化システムモデルの確立</p> <p>12月 ● ひまじ油を原料とした植物性プラスチックを開発</p> <p>● 世界初、300ギガバイトのシリアルATA対応2.5型HDD発売</p> <p>● 世界最小の設置面積を実現したコンパクトPCサーバ「PRIMERGY TX120」発売</p>
<p><b>'07年</b></p> <p>3月 ● コンサルティング事業本部と(株)富士通総研を統合</p> <p>4月 ● LSI前工程製造会社、富士通セミコンダクターテクノロジ(株)事業開始</p> <p>● 三重工場内で300mmウェーハ対応ロジックLSI工場第2棟稼働 [三重工場300mm第2棟]</p> <p>5月 ● 独SAP AGとグローバル・テクノロジー・パートナー契約、グローバル・サービス・パートナー契約に続き、グローバル・ホスティング・パートナー契約を締結</p> <p>6月 ● (株)富士通ミッションクリティカルシステムズ(現富士通)設立</p> <p>7月 ● 流通業SE機能を(株)富士通システムソリューションズ(現富士通)へ移管</p> <p>8月 ● 独シーメンス社と手のひら静脈認証ビジネスで協業</p> <p>9月 ● Fujitsu Consulting Holdings, Inc.(現 Fujitsu America, Inc.) が米 SaaS ビジネス企業 OKERE社を買収</p> <p>● 次世代スーパーコンピュータシステム(文部科学省が進める次世代スーパーコンピュータプロジェクトの一環)において、日本電気(株)、(株)日立製作所との共同開発が決定</p> <p>10月 ● 富士通アドバンステクノロジ(株)と富士通デザイン(株)を設立</p> <p>● Fujitsu New Zealand LimitedがニュージーランドのITサービス企業 Infinity Solutions社の買収を発表</p> <p>● 電子デバイス事業の営業部門と富士通デバイス(株)の営業部門を統合し、富士通エレクトロニクス(株)設立</p> <p>● Fujitsu Consulting Holdings, Inc.(現 Fujitsu America, Inc.) がカナダのITコンサル企業 Promaintech Novaxa社を買収</p> <p>11月 ● メインフレーム系基盤ソフトウェアの開発・保守部門を会社分割し、富士通ミッションクリティカルソフトウェア(株)設立</p> <p>● Fujitsu Services Holdings PLCがスウェーデンのITサービス企業 Mandator社の株式公開買付けを実施</p>	<p><b>'07年</b></p> <p>1月 ● 世界最薄防水携帯電話「FOMA F703i」発売</p> <p>4月 ● 米サン・マイクロシステムズ社との共同開発UNIXサーバ「SPARC Enterprise」発売</p> <p>5月 ● 世界最小の超小型軽量コンバーチブル型PC「FMV-LIFEBOOK U」シリーズ発売</p> <p>● 「らくらくホンシリーズ」の累計販売台数が1,000万台を突破</p> <p>8月 ● Fujitsu Services Holdings PLCが英 Reuters社より大型アウトソーシング契約を獲得</p> <p>9月 ● 世界初、マウス型手のひら静脈認証装置を発売</p>
<p><b>'08年</b></p> <p>1月 ● 携帯電話ビジネスの製造・修理部門を会社分割により分社し、富士通モバイルフォンプロダクツ(株)(現富士通周辺機(株))設立</p> <p>2月 ● Fujitsu Consulting Holdings, Inc.(現 Fujitsu America, Inc.) がカナダの地理情報科学を専門とするITコンサル企業 Intelc Geomatics社を買収</p> <p>3月 ● LSI事業を会社分割により分社し、富士通マイクロエレクトロニクス(株)(現富士通セミコンダクター(株))を設立</p> <p>6月 ● SIプロジェクトの第三者品質検証を行う(株)富士通アドバンスクオリティ設立</p> <p>7月 ● フォトニクスネットワーク事業の製造部門および国内向け開発部門を富士通アクセス(株)と統合し、富士通テレコムネットワークス(株)を設立</p> <p>● 中期環境ビジョン「Green Policy 2020」策定</p> <p>10月 ● (株)FFCを完全子会社化し、(株)富士通アドバンスエンジニアリングに社名変更</p>	<p><b>'08年</b></p> <p>1月 ● 世界初、航空分野向け64キロバイトの大容量FRAMを搭載したRFIDタグを開発</p> <p>2月 ● 世界最小サイズの一体型モバイルWiMAX基地局装置「BroadOne WX300」を世界で発売</p> <p>● SaaSサービスを本格的に提供開始</p> <p>3月 ● 世界初、カーボンナノチューブとグラフェンの自己組織形成に成功</p> <p>● Windowsケータイ FOMA「F1100」発売</p> <p>4月 ● 海外でそのまま使える「らくらくホン プレミアム」発売</p> <p>● 世界初、暗号化方式AES 256ビットに対応した320ギガバイト2.5型HDD発売</p> <p>11月 ● シニアやパソコン初心者向けの「FMVらくらくパソコン」発売</p>
<p><b>'09年</b></p> <p>3月 ● Fujitsu Australia LimitedがオーストラリアのITサービス企業KAZ社を買収、オーストラリアIT市場で売上第3位に</p> <p>4月 ● 独シーメンス社からFujitsu Siemens Computers(Holding) B.V.の株式を取得し完全子会社化。Fujitsu Technology Solutions(Holding) B.V.設立</p> <p>● 北米三社を統合し、Fujitsu America, Inc.設立</p> <p>● フロントテクノロジー事業を富士通フロンテック(株)へ一元化</p> <p>● オーストラリアのSAPコンサルティング会社 Supply Chain Consulting社を買収</p> <p>● 富士通マイクロエレクトロニクス(株)(現富士通セミコンダクター(株))が台湾TSMC社に40nm世代のロジックIC製造を委託</p>	<p><b>'09年</b></p> <p>1月 ● 「環境経営ソリューション」提供開始</p> <p>4月 ● クラウドサービス基盤「Trusted-Service Platform」提供開始</p> <p>● メインフレーム「GS21」の「1600/1400モデルグループ」発売</p>



	事業展開	製品展開
	<p>5月 ● 持分法適用関連会社FDK(株)を連結子会社化</p> <p>7月 ● (株)山形富士通のHDDメディア事業を昭和電工(株)に譲渡</p> <p>8月 ● (株)富士通ビジネスシステム(現 (株)富士通マーケティング)を完全子会社化</p> <p>● 富士通マイクロエレクトロニクス(株)(現 富士通セミコンダクター(株))がTSMCと28nm世代のロジックICの製造および開発で協力</p> <p>10月 ● HDDドライブ事業を(株)東芝に譲渡</p> <p>● 富士通情報システム(深圳)有限公司を設立</p> <p>11月 ● 次世代サービスの新たな拠点、館林システムセンター(現 館林データセンター)新棟をオープン</p>	<p>5月 ● 業界最高クラスとなる18枚搭載の大規模ブレードサーバ「PRIMERGY BX900」発売</p> <p>● 世界最速のCPU「SPARC64 VIII fx」(128GFlops)を公開</p> <p>6月 ● 「ETERNUS」のグローバル展開本格化</p> <p>● 世界初、電源装置向け窒化ガリウムHEMTを開発</p> <p>7月 ● 次世代スーパーコンピュータの新システム構成を決定</p> <p>11月 ● 世界初、大基板全面にグラフェントランジスタを低温で直接形成する技術を開発</p>
2010～	事業展開	製品展開
	<p><b>'10年</b></p> <p>1月 ● 富士通とシンガポール科学技術庁がベタスケールコンピューティングで共同研究</p> <p>3月 ● スマートグリッド関連事業について富士通と富士電機(株)で業務提携に向けた覚書を締結</p> <p>4月 ● 富士通マイクロエレクトロニクス(株)を富士通セミコンダクター(株)に商号変更</p> <p>● (株)PFUの株式交換による完全子会社化</p> <p>● クラウド・コンピューティング時代に向けた国内最大規模のショールーム・検証サポート施設「富士通トラステッド・クラウド・スクエア」を開設</p> <p>5月 ● 富士通とセールスフォース・ドットコムがグローバルで包括的協業</p> <p>6月 ● ブランドプロミス「shaping tomorrow with you」を制定</p> <p>10月 ● (株)富士通ビジネスシステムを、(株)富士通マーケティングに商号変更</p> <p>● 携帯電話事業を(株)東芝と統合</p> <p>12月 ● (株)東芝による東芝ストレージデバイス(株)の完全子会社化</p> <p><b>'11年</b></p> <p>6月 ● 京速コンピュータ「京」※が8.162ペタフロップスの性能を達成し世界一に</p> <p>※理化学研究所と富士通が共同で開発</p> <p>● 富士通とSAS Institute Japan(株)、情報分析の分野で協業</p> <p>11月 ● 京速コンピュータ「京」が世界初の10ペタフロップス超えを達成、2期連続世界1位に</p> <p><b>'12年</b></p> <p>2月 ● カナダのITサービスプロバイダー Technology Management Corporationを買収</p> <p>4月 ● 地域SE新会社(株)富士通システムズ・イースト(現 富士通)、(株)富士通システムズ・ウエスト(現 富士通)を発足</p> <p>● 富士通東芝モバイルコミュニケーションズ(株)(現 富士通コネクテッドテクノロジーズ(株))を完全子会社化</p> <p>● 中国広東省管轄政府系企業と共同で、富士通中国華南データセンターを開設</p> <p>8月 ● 富士通グループが世界で最初の事業継続マネジメントシステムの国際規格「ISO22301」の第三者認証を取得</p> <p>9月 ● スーパーコンピュータ「京」の共用開始</p> <p>10月 ● 富士通セミコンダクター(株)の岩手工場を(株)デンソーへ譲渡</p> <p>11月 ● 複数企業の情報システム部門に、ITマネジメントのアウトソーシングサービスを提供する(株)ITマネジメントパートナーズ設立</p> <p>12月 ● 三井物産(株)とスマートコミュニティ事業で合弁会社フューチャーシティソリューションズ(株)設立</p>	<p><b>'10年</b></p> <p>1月 ● (株)東京証券取引所様の次世代株式売買システム「arrowhead」稼働</p> <p>2月 ● Fujitsu Services Holdings PLCが英国労働年金省様より英国最大規模のデスクトップアウトソーシングサービスを受注</p> <p>3月 ● クラウドコンピューティング向け新サーバプラットフォーム「PRIMERGY CX1000」発売</p> <p>● 世界初のセパレートケータイ「docomo PRIME series™ F-04B」発売</p> <p>4月 ● プライベートクラウド対応製品群を発売</p> <p>9月 ● 次世代スーパーコンピュータ「京」出荷開始</p> <p><b>'11年</b></p> <p>2月 ● 初のau向けスマートフォン「REGZA Phone IS04」発売</p> <p>3月 ● 「PRIMERGYシリーズ」の累計販売台数100万台を達成</p> <p>5月 ● Fujitsu Australia Limitedが、オーストラリア全土光ブロードバンド網展開プロジェクトを受注</p> <p>6月 ● (株)東京証券取引所様に採用されたインメモリデータ管理ソフトウェア「Primesoft Server」発売</p> <p>● 位置情報を活用した新しいサービス「SPATIOWL」提供開始</p> <p>9月 ● 「らくらくホンシリーズ」の累計販売台数2,000万台達成</p> <p>10月 ● 次世代ものづくり環境「エンジニアリングクラウド」提供開始</p> <p>● docomo向けタブレット端末「ARROWS Tab LTE F-01D」発売</p> <p>11月 ● スーパーコンピュータ「PRIMEHPC FX10」発売</p> <p>● 東京大学情報基盤センター様よりスーパーコンピュータシステムを受注</p> <p><b>'12年</b></p> <p>1月 ● ビッグデータ活用のためのクラウドサービス「データ活用基盤サービス」提供開始</p> <p>● 個人向けタブレット端末「ARROWS Tab Wi-Fi」発売</p> <p>2月 ● 新グローバルブランド国内第1弾、デスクトップ型シンクライアント「FUTRO S900」発売</p> <p>5月 ● 製造で培った富士通グループにおける長年のノウハウ、ツールを提供するコンセプト「ものづくり革新隊」発表</p> <p>● 個人ユーザ向け富士通パソコン活用の新コンセプト「マイクラウド」発表</p> <p>6月 ● 次世代暗号であるペアリング暗号で、278桁長の暗号解読に成功し、世界記録を達成</p> <p>7月 ● 初のソフトバンク向けスマートフォン「ARROWS A SoftBank101F」発売</p> <p>8月 ● 「らくらくスマートフォン」発売</p> <p>10月 ● 食・農クラウド「Akisai」提供開始</p> <p>11月 ● 愛犬歩数計「わんだんと」を活用したクラウドサービス提供開始</p> <p>● カナダ中西部にデータセンター新設</p> <p>12月 ● ビッグデータサービスにおいてセールスフォース・ドットコムの「Force.com」と連携</p>



	事業展開	製品展開
	<p><b>'13年</b></p> <p>2月 ● システムLSI事業でのファブレス新会社設立や三重工場300mmラインの新ファウンドリ会社への移管などを含む半導体事業の再編と方針を発表</p> <p>4月 ● 全社ビジョン「Fujitsu Technology and Service Vision」策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● フランスのクラウドサービス事業者RunMyProcess社を買収</li> <li>● 富士通セミコンダクター(株)のマイコン・アナログ事業をスパンション・グループに譲渡</li> </ul> <p>10月 ● 社会インフラ系SE会社を再編・統合し、(株)富士通ミッションクリティカルシステムズ(現富士通)設立</p> <p><b>'14年</b></p> <p>2月 ● 川崎市とICT環境の充実や次世代育成などの分野における連携・協力を通じた持続的なまちづくりを目指し包括協定を締結</p> <p>3月 ● EMEA、アメリカ、アジア、オセアニア、日本の5リージョン体制に再編し、グローバルデリバリー体制を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 富士通国内グループ200社、11万人のコミュニケーション基盤構築を完了</li> </ul> <p>4月 ● モバイルフォン端末の製造を富士通周辺機(株)に統合</p> <p>5月 ● スーパーコンピュータの高次元接続技術が「恩賜発明賞」受賞</p> <p>7月 ● システムLSI事業の統合会社の設立に関する正式契約を締結</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 富士通セミコンダクター(株)とオン・セミコンダクター社が戦略的パートナーシップを締結</li> <li>● パナソニックITソリューションズ(株)の株式譲受およびパナソニックグループ向け情報システム関連業務のアウトソーシング開始</li> </ul> <p>8月 ● 富士通セミコンダクター(株)のファウンドリ新会社にUMC社が資本参加</p> <p>9月 ● ワーク・ライフスタイルを創出する場HAB-YU platformを開設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● インドにFujitsu HPC Competency Centerを開設</li> </ul> <p>10月 ● シンガポール科学技術庁、Singapore Management Universityの3者で先端研究組織を設立</p> <p>12月 ● 三重富士通セミコンダクター(株)、会津富士通セミコンダクターウェアソリューション(株)、会津富士通セミコンダクターマニファクチャリング(株)、会津富士通セミコンダクター(株)が事業開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 米国TechShopとメイカムーブメントの推進に向けて協業</li> </ul>	<p><b>'13年</b></p> <p>1月 ● UNIXサーバ「SPARC M10」発売</p> <p>3月 ● サウジアラビア工業用地公団と環境管理システムの構築と運用に関する契約締結</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大型電波望遠鏡「アルマ」のスーパーコンピュータが稼働</li> </ul> <p>5月 ● 会津若松地域におけるスマートコミュニティの事業化に着手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SDNのアーキテクチャー「FUJITSU Intelligent Networking and Computing Architecture」確立</li> <li>● 沼津工場内に「Akisai農場」開設</li> <li>● クラウド製品・サービス群を「FUJITSU Cloud Initiative」として体系化</li> </ul> <p>6月 ● フランステレコム (Orange) と欧州シニア市場に富士通製スマートフォンを販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ビッグデータ製品・サービス群を「FUJITSU Big Data Initiative」として体系化</li> </ul> <p>8月 ● モバイル製品・サービス群を「FUJITSU Mobile Initiative」として体系化</p> <p>10月 ● 位置情報を活用したクラウドサービス「SPATIOWL」をパッケージ化し、海外で提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本の製造業を支援する「ものづくりソリューション」を体系化</li> </ul> <p>11月 ● 「明石システムセンター」に新棟を開設</p> <p><b>'14年</b></p> <p>1月 ● 暗号化したまま検索可能な秘匿検索技術を開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様・社会の安心安全を支える情報セキュリティ製品・サービス群を「FUJITSU Security Initiative」として新たに体系化</li> </ul> <p>2月 ● 大人世代向けパソコン「GRANNOTE」発売</p> <p>3月 ● 「デジタルマーケティングソリューション」の製品・サービスを強化</p> <p>4月 ● 新プロセッサ搭載「GS21シリーズ」の新モデル発売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● JAXA様がスーパーコンピュータシステムを刷新</li> </ul> <p>5月 ● 会津若松Akisaiやさい工場産「キレイヤサイ」を販売開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SDNによる広域ネットワーク向け仮想化製品を提供</li> <li>● OpenStackに対応したプライベートクラウド基盤製品群を強化</li> </ul> <p>7月 ● 詳細な走行行動がわかる商商用プローブデータ・サービスを提供</p> <p>9月 ● キング・アブドゥルアズィズ大学にハイパフォーマンス・コンピューティングシステムとサービス・ソリューションを導入</p> <p>10月 ● 児童生徒1人1台情報端末時代に向け、明日の学びプロジェクト開始</p> <p>11月 ● ヒューマンセントリックIoTの取り組み推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IoTプラットフォームを提供開始</li> <li>● モノに情報を付与できるLED照明技術の開発に成功</li> <li>● SIMフリーに対応したスマートフォン「ARROWS M01」を提供開始</li> </ul> <p>12月 ● 地域金融機関向け勘定系システムアウトソーシング「FSPS」を販売開始</p>
	<p><b>2015～</b></p> <p><b>'15年</b></p> <p>2月 ● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のゴールドパートナーに決定</p> <p>3月 ● システムLSI事業の統合新会社(株)ソシオネクスト 事業開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● いすゞと次世代自動車システムの共同研究について合意</li> <li>● シンガポールのデータセンター拠点を拡張</li> </ul>	<p><b>'15年</b></p> <p>1月 ● ウェアラブルセンサー「FEELYthm」を販売開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● マイナンバー制度対応ソリューションを体系化し提供開始</li> </ul> <p>2月 ● グループ内外の社内システムを次世代クラウド基盤へ移行開始</p> <p>3月 ● 人とロボットが協調する次世代ものづくりの取り組みを開始</p>
	<p><b>事業展開</b></p>	<p><b>製品展開</b></p>



事業展開	製品展開
<p>4月 ● コーポレートベンチャーファンドを設立 ● 独立役員会議を設置</p> <p>6月 ● サンフランシスコ ペイエリアにOpen Innovation Gatewayを開設</p> <p>7月 ● 商用車プローブデータの分析と道路補修支援のサービスを提供する(株)富士通交通・道路データサービス設立</p> <p>8月 ● 交通・道路分野におけるデータ分析サービスの研究・開発会社(株)富士通TR・REC研究所をW設立 ● Fintechでオープンイノベーションを加速「Financial Innovation For Japan」始動 ● Fujitsu Services Holdings PLCが英ACT社を買収、交通業界向けビジネス強化</p> <p>9月 ● 米Domo社とビジネス管理プラットフォームで協業</p> <p>10月 ● 会員制オープンアクセス型DIY工房「テックショップジャパン」を設立 ● コビキタスビジネスの体制強化</p> <p>11月 ● シンガポールで人・交通の混雑を緩和する実証実験を開始 ● VMwareとクラウド分野でのグローバル協業を拡大 ● クラウドビジネス強化のため仏UShareSoft社を買収 ● 高度な分析を行う「FUJITSU Advanced Artifact Analysis Laboratory」を東京と横浜に開設</p> <p>12月 ● ベトナムFPT社と「食・農クラウド Akisai」を活用した日本の最新農法を紹介するショールームをハノイに開設</p>	<p>4月 ● データセンターのライフサイクルを支援する「データセンターマネジメントソリューション」を提供開始 ● 聴覚障がい者参加型コミュニケーションツール「LiveTalk」を発表</p> <p>5月 ● ソーシャルメディア活用ソリューション「FUJITSU Intelligent Data Service Socialive」を提供開始 ● 企業向けウェアラブル端末「FUJITSU IoT Solution UBIQUITOUSWARE ヘッドマウントディスプレイ」販売開始 ● インテグレーションコンセプト「FUJITSU Knowledge Integration」を提唱。デジタルビジネス・プラットフォームを順次提供開始 ● 虹彩認証機能などを搭載した「ARROWS NX F-04G」を発売 ● IoTデータ活用基盤サービス「FUJITSU Cloud IoT Platform」を提供開始</p> <p>7月 ● 大規模医療機関向けWeb型電子カルテシステム「HOPE LifeMark-HX」を販売開始</p> <p>8月 ● 光伝送システムの新シリーズ「1 FINITY」を開発</p> <p>9月 ● (株)東京証券取引所様の株式売買システム「arrowhead」をリニューアル ● デジタルビジネス・プラットフォーム「MetaArc」を提供</p> <p>11月 ● AI技術を「Human Centric AI Zinrai」として体系化</p> <p>12月 ● 世界最小・最高効率の12ワット出力ACアダプターを開発</p>
<p>'16年</p> <p>2月 ● PC事業を担う富士通クライアントコンピューティング(株)、携帯端末事業を担う富士通コネクテッドテクノロジーズ(株)を設立 ● (株)富士通HRプロフェッショナルズの株式をトランスコスモスへ一部譲渡 ● 世界の代表的なSRI格付会社RobecoSAM社のCSR格付において「ゴールドクラス」を初めて獲得 ● 日揮情報システム(株)の株式取得</p> <p>3月 ● みずほ銀行と国境を越えた証券取引の決済プロセス効率化に向けた実証実験を実施</p> <p>4月 ● 館林データセンターに新棟を開設 ● 静岡県磐田市でのスマートアグリカルチャー事業を開始</p> <p>5月 ● 米BAE Systems社と、サイバー脅威インテリジェンス(CTI)活用システムを共同開発</p> <p>6月 ● Box社とコンテンツマネジメント分野における戦略的パートナーシップに関するMOUを締結</p> <p>7月 ● オラクル・コーポレーション、日本オラクル(株)とクラウドビジネスの加速に向けて戦略的提携 ● 米ネットワークサービス企業TrueNet Communications, Inc.を買収</p>	<p>'16年</p> <p>1月 ● 世界最大規模の磁化反転シミュレーターを開発し、ジスプロシウム不要のネオジム磁石開発の指針を初めて提示 ● 世界最高出力性能を有するW帯向け窒化ガリウム送信用パワーアンプの開発に成功</p> <p>2月 ● 世界最高速、56Gbpsの無線伝送に成功 ● 世界最小電力、サーバ間の光通信向け次世代56Gbps送受信回路を開発 ● Deep Learning適用で「データキュレーションサービス」を強化 ● 世界初、複数組織のデータを異なる鍵で暗号化したまま照合可能な暗号技術を開発</p> <p>3月 ● 金融業界のデジタル革新の加速に向け、金融ソリューションを「Finplex」として新たに体系化</p> <p>5月 ● 東京大学・筑波大学が共同運営する最先端共同HPC基盤施設の新スーパーコンピュータシステムを受注 ● 新たな事業の創出を支援する、共創サービスを体系化 ● サイバー攻撃による事業被害の極小化に向け、グローバルマネージドセキュリティサービスを強化 ● サイバー攻撃の全貌をひと目で把握する高速フォレンジック技術を開発 ● 数十Gbpsの伝送速度を有する300GHz帯を用いたテラヘルツ無線用小型送受信機を世界で初めて開発し、高速データ伝送実験に成功</p> <p>6月 ● ものづくりに特化したAI活用基盤を開発し、コンサルティングサービスで提供 ● SIMフリーのスマートフォン「arrows M03」を発売</p>





事業展開	製品展開
<p>9月 ● 日本マイクロソフト(株)とお客様のワークスタイル変革を実現するグローバルコミュニケーション基盤の導入促進に向け連携を強化</p> <p>● 公益財団法人日本バスケットボール協会(JBA)、公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(B.LEAGUE)と、パートナー契約を締結</p> <p>● 米Tealium, Inc.とデジタルマーケティング事業で協業</p> <p>11月 ● (株)富士通システムズ・イースト、(株)富士通システムズ・ウエスト、(株)富士通ミッションクリティカルシステムズの国内大手SE子会社を吸収合併</p> <p>● 独SUSE Limited Liability Companyとオープンソース製品開発・サポートで戦略的に協業</p> <p>● 農業ICTシステムを導入した植物工場を活用し、農作物の生産・販売を行う新会社「Fujitsu Greenhouse Technology Finland Oy」をフィンランドで設立</p> <p><b>'17年</b></p> <p>1月 ● 米Marketo, Inc.とマーケティングオートメーション事業で協業</p> <p>2月 ● 富士電機(株)との株式持合いを見直し</p> <p>3月 ● フランス政府と連携し、デジタル革新を支援するイノベーションプロジェクトに投資</p> <p>● VMware, Inc.と自動車業界向けIoTソリューション提供に向けて戦略的協業を拡大</p> <p>4月 ● 「理研AIP-富士通連携センター」を開設</p> <p>● ニフティ(株)のエンタープライズ向け事業を継承した富士通クラウドテクノロジーズ(株)設立</p> <p>● ニフティ(株)のコンシューマ向け事業を(株)ノジマに譲渡</p> <p>● (株)グリッドとAIサービスの共同開発で協業</p> <p>● 「テレワーク勤務制度」を正式導入</p> <p>● UBiqube社との業務、資本提携を合意</p> <p>● 富士通テン(株)の一部株式の(株)デンソーへの譲渡を決定</p> <p>5月 ● 米Mirantis, Inc.とプライベートマネージドOpenStack提供に向けた戦略的協業契約を締結</p> <p>● 古河電工(株)と情報システムに関する業務提携で合意</p> <p>● トレジャーデータ(株)とデジタルマーケティング事業で協業</p> <p>● 2050年に向けた中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」を策定</p> <p>● 1QBitと量子コンピュータ技術を応用したAIクラウドで協業</p> <p>6月 ● (株)富士通研究所 名誉フェロー三村高志が第33回「京都賞」を受賞</p> <p>● スーパーコンピュータ「京」が性能指標(HPCG)で2期連続世界第1位を獲得</p> <p>● 5期連続でスーパーコンピュータ「京」がGraph500で世界第1位を獲得</p> <p>7月 ● テレコムニカシ・インドネシアと富士通、デジタル社会の発展に向けた戦略的パートナーシップに関するMOUを締結</p> <p>8月 ● 「富士通グループ健康宣言」を制定</p> <p>9月 ● 「女性のエンパワーメント原則(WEPs)」に署名しダイバーシティ推進活動を加速</p> <p>● WIPO GREENにパートナーとして参画</p> <p>● (株)富士通研究所と加トロント大学、戦略的パートナーシップを締結</p> <p>10月 ● 国際体操連盟と富士通、体操競技の採点支援システムの実用化に向けて提携</p> <p>11月 ● 富士通と蘭HERE Technologies社、先進モビリティサービスと将来の自動運転で提携</p>	<p>9月 ● 東京大学宇宙線研究所様から「スーパーカミオカンデ」の実験用計算機システムを受注</p> <p>10月 ● 上海備電(集団)有限公司(INESA)と「中国製造2025」に向け、「スマート製造プロジェクト」で協業</p> <p>● 都市監視を実現するソリューション「Citywide Surveillance」、駐車管理を実現するソリューション「Parking Analysis」を販売開始</p> <p>● エンドポイントのセキュリティ対策を強化する「マルウェア侵入経路追跡サービス」を提供開始</p> <p>● 人やモノのつながりを表すグラフ構造のデータから新たな知見を導く新技術「Deep Tensor」を開発</p> <p>● 量子コンピュータを実用性で超える新アーキテクチャーを開発</p> <p>● 法人向けSIMフリースマートフォン「ARROWS M357」発売</p> <p>11月 ● 「居住者の見守りソリューション」を提供開始</p> <p>● デジタルマーケティング分野の製品・ソリューションを「CX360」として体系化</p> <p>● SAPジャパン(株)と製造現場向けソリューションのビジネス領域でグローバル市場への展開を視野に協業</p> <p>● 世界最速クラスのディープラーニング基盤と、業種・業務に対応したAIサービスを提供</p> <p>12月 ● 製造工程の稼働状況を可視化するIoTソリューション「VisuLine」を販売開始</p> <p>● コミュニケーション基盤の迅速な導入を支援する「デジタルグローバルコミュニケーションサービス」を提供開始</p> <p>● AR技術を活用したソリューション「3D重畳設計製造物診断」を販売開始</p> <p><b>'17年</b></p> <p>1月 ● AIを活用したエンタープライズ型チャットボットサービス「Finplex Robot Agent Platform」を提供</p> <p>4月 ● 世界最速サーバ「SPARC M12」を全世界で提供開始</p> <p>5月 ● 製造業におけるつながるサービスを実現するものづくりデジタルプレイス「COLMINAL」を販売開始</p> <p>● 世界最速クラスのディープラーニング基盤システム「Zinrai ディープラーニングシステム」販売開始</p> <p>6月 ● 九州大学情報基盤研究開発センター様の新たなスーパーコンピュータシステムを受注</p> <p>● 台湾ナショナルスーパーコンピュータセンターに台湾最高性能となる新スーパーコンピュータシステムを構築</p> <p>7月 ● パーソナルデータを活用した情報銀行の実証実験を開始</p> <p>● W帯向け窒化ガリウム送信用パワーアンプで世界最高の出力密度を達成</p> <p>8月 ● AI技術により、橋梁内部の損傷度合いの推定に成功</p> <p>● 富士通とVMware、グローバルにおける協業を拡大し、エンタープライズのデジタルトランスフォーメーションを支援</p> <p>● 最適な保育所入所選考を実現するAIを用いたマッチング技術を開発</p> <p>9月 ● 世界初、ウェアラブル型のハンズフリー音声翻訳端末を開発</p> <p>● AIの推定理由や根拠を説明する技術を開発</p> <p>● 組合せ最適化手法の実問題適用を容易にする技術を開発</p> <p>10月 ● 5Gスモールセル向け基地局の低消費電力技術を開発</p> <p>● 城南信用金庫様、次期勘定系システムに勘定系システム向けメインフレームクラウドサービス「FSPS」を採用</p> <p>11月 ● 東京都様とサービスロボットを活用した観光案内などの実証実験を開始</p> <p>● 商船三井様、宇部興産海運様とAIを活用した船舶性能推定技術を実証</p>



事業展開	製品展開
<p>12月 ● 富士通とUTグループ社が人材派遣事業で協業 ● 富士通とマイクロソフト、AI分野で戦略協業</p>	<p>11月 ● 顧客接点高度化ソリューション「CHORDSHIP」を販売開始 ● 島津製作所と富士通、富士通研究所が共同研究の成果を発表 ● 東北大学流体科学研究所様のスーパーコンピュータシステムを受注 ● 「B.LEAGUE ALL-STAR GAME 2018 次世代型ライブビューイング」を開催 ● 世界最高の放熱性能を持つ純カーボンナノチューブ放熱シートの開発に成功</p> <p>12月 ● LPWA対応・電池交換不要の世界最小センサーデバイスを実現 ● 自然な対人コミュニケーションを実現する「ロボットAIプラットフォーム」の提供 ● KDDI・ゼンリン・富士通、自動運転向け「ダイナミックマップ」の生成・配信技術の実証実験を開始 ● IoTを活用したなわとび運動により、児童の運動能力育成を支援する「なわとびセンシングサービス」を販売開始 ● サンスターと富士通、IoTスマートハブラシと歯科医院向けクラウドサービスを連携させた先進予防歯科サービスを販売開始</p>
<p><b>'18年</b></p> <p>1月 ● 田中達也社長がフランス政府よりレジオン・ドヌール勲章を受章</p> <p>2月 ● 富士通による(株)富士通ビー・エス・シーの株式交換による完全子会社化</p> <p>3月 ● 富士通コネクテッドテクノロジーズの株式および富士通周辺機の携帯端末事業を承継する新会社の株式をボラリスへ譲渡 ● 富士通、中国スマート製造市場の開拓に向け、上海儀電と合併会社を設立 ● FOMMと富士通、新たなモビリティ社会の実現に向けた協業を開始 ● 「ブロックチェーン・イノベーション・センター」をブリュッセルに開設 ● 相談役・顧問制度を廃止</p> <p>4月 ● 「平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」において「科学技術賞」を3件受賞 ● 米オン・セミコンダクター社が会津富士通セミコンダクターマニュファクチャリング(株)への出資比率を40%に引き上げ</p> <p>5月 ● 富士通と米Pivotal社、パートナーシップ契約を締結し、デジタルビジネス領域で協業を加速 ● 富士通と中国レノボ社および日本政策投資銀行がPC事業の合併会社を設立</p> <p>6月 ● SportsAnalyticsを専門とする新会社RUN.EDGE(株)が事業開始 ● 台湾UMC社、三重富士通セミコンダクターの株式100%取得で合意</p> <p>7月 ● 不二製油(株)と富士通、情報システムに関する業務提携で合意 ● 「テレワーク・デイズ」、社員1万人がテレワークを実施</p> <p>8月 ● 再エネ100%を目指す国際的なイニシアチブ「RE100」に加盟 ● リレー式計算機「FACOM128B」が重要科学技術史資料として登録</p> <p>9月 ● 早稲田大学とデジタルアニーラセンターを設立</p>	<p><b>'18年</b></p> <p>1月 ● 信濃毎日新聞社と富士通、多様なメディア配信に活用可能なAIによる自動記事要約システムを実現 ● (株)リクルートコミュニケーションズと「デジタルアニーラ」を活用したマーケティング・テクノロジーの共同研究を開始</p> <p>2月 ● 流通業界のデジタル革新を加速するIoT活用サービス基盤「SMAVIA」を販売開始</p> <p>3月 ● 世界180カ国対象のグローバルオンサイトオペレーションを提供開始 ● 青山商事様の店舗にて、来店客の視線からAIで心理を推定し、接客業務を高度化する実証実験を開始 ● 台湾ファミリーマートの新ITコンセプト店舗で、デジタル技術を活用した実証実験を開始</p> <p>4月 ● 福岡造船と富士通、造船の生産性向上に向けAR技術を活用した船舶部品の管理システムを運用開始 ● 心臓の挙動を学習できる「Heart Explorer」を販売開始 ● 富士通・SMU・A*STAR、シンガポール海事港湾庁と海上交通マネジメント技術を活用した実証実験を開始 ● 少ないデータでも学習可能なディープラーニングによる物体検出技術を開発 ● 旭酒造と富士通、予測AIを活用した日本酒醸造の実証実験を開始</p> <p>5月 ● 新薬候補を効果的に創出する分子シミュレーション技術を開発 ● 日本出版販売と富士通、AIを活用した選書サービス「SeleBoo」を共同開発 ● デジタルアニーラクラウドサービスを提供開始 ● RPAを中核にデジタルテクノロジーを活用し、次世代のワークスタイルを実現する「ACTIBRIDGE」を提供開始 ● 手のひら静脈認証センサー「PalmSecure」が累計販売台数100万台を達成</p> <p>6月 ● 服のシェアリングサービスを期間限定で銀座三越に導入し、トライアル検証 ● お客様ビジネスのデジタル革新を支援するクラウドサービスを刷新 ● 大規模AIクラウド計算システム「ABCI」がスパコンランキングTOP500で世界5位、Green500で世界8位を獲得 ● スーパーコンピュータ「京」がGraph500において7期連続で世界第1位を獲得</p> <p>7月 ● 生体認証技術を活用しカードレス決済の実証実験開始 ● 実証試験用システムによる世界最高効率の水素製造に成功 ● 富士通とNPO法人SEEDS Asiaがインドで実証実験を開始 AR技術を含むスマートフォンアプリで洪水水位を測定し都市浸水を可視化 ● 慶應義塾大学医学部と富士通、AIによる診療支援を実現する技術を開発</p> <p>8月 ● 絶滅危惧植物の保護に向け、ドローンとAIを活用したビデオ分析を実施</p> <p>9月 ● JRA様に手のひら静脈による認証で馬券購入が可能なキャッシュレス発売機を提供 ● サーバシステム向け「液浸冷却システム」を販売開始 ● 富士通、理化学研究所、昭和大学がAIを用いた胎児心臓超音波スクリーニングを開発 ● 正解が少ないデータでも高精度に学習するAIの新技術「Wide Learning」を開発 ● 業種業界を超えたデータ流通の信頼性を向上する技術を開発 ● 分散ストレージ上で大量データを高速処理する基盤技術を開発</p>

	事業展開	製品展開
	<p>10月 ● 富士通研究所とマサチューセッツ工科大学 Center for Brains, Minds and Machines 知能研究の分野で共創関係を強化</p> <p>● インテックと富士通、地域金融機関のビジネス変革支援に向けて協業を開始</p> <p>● 沼津工場における緑地の保全活動が都市緑化機構「SEGES (シージェス)」で緑の殿堂の認定を取得</p> <p>● 富士通とエリクソンが5Gで戦略的パートナーシップの締結に合意</p> <p>● 富士通とTanium、国内初のパートナーシップ契約を締結し、ネットワークセキュリティサービス領域で協業</p> <p>● 「音声情報を活用した生物の生息調査システムの開発」が2018年日経地球環境技術賞(第28回)において優秀賞を受賞</p> <p>11月 ● 「EcoBalance2018」にて、「Award for Best Business Practices」を受賞</p> <p>● 富士通と上海信投、ヘルスケア分野において協業</p> <p>● AIビジネスをグローバルに牽引する新会社「FUJITSU Intelligence Technology」が事業を開始</p> <p>● 大津市と富士通、ICT活用およびデータ分析分野における連携協定を締結</p> <p>● 「液浸冷却システム」が平成30年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞</p>	<p>10月 ● 手ぶら決済に最適な非接触の生体認証融合技術を開発</p> <p>● デジタルバンキングの中核となる国内初のクラウド型バンキングソリューション開発に着手</p> <p>● 業界初! 公共工事の設計・積算業務支援ソフト「ESTIMA」にAIを搭載</p> <p>● AIを活用したパーソナライズドバンキングサービス提供に向けた共同実証実験を開始</p> <p>● データセンターの空調電力を大幅に削減する空調制御技術を開発</p> <p>● 富士通、Royal Bank of ScotlandグループNatWestにおいて「デジタルアニーラ」の実証実験を実施</p> <p>● NEC・日立・富士通、サイバーセキュリティ技術者の共通人材モデル「統合セキュリティ人材モデル」を策定</p> <p>● ハイエンドストレージ「ETERNUS DX8000 S4」シリーズの新モデルを販売開始</p> <p>● ブロックチェーン技術を活用した新たな銀行間決済の実証実験を実施</p> <p>● 大規模データの処理性能を強化した「iCAD SX V7L7」を販売開始</p> <p>● より安全な津波避難に向けたICT活用の実証実験を実施</p> <p>● 遺伝子疾患のメカニズム解明につながる生物化学反応を予測する技術を開発</p> <p>11月 ● 川口市立高等学校 ICTを活用したジグソー法によるアクティブ・ラーニングを全国の高等学校で初導入</p> <p>● 小型・軽量で非接触型の手のひら静脈認証入室装置「PalmSecure AuthGate」を新発売</p> <p>● クラウドをより簡単に導入できる「PRIMEFLEX for Microsoft Azure Stack」を発表</p> <p>● 業界初! AIを搭載した「MICJET MISALIO 保育所AI入所選考」ソフト提供開始</p> <p>● スーパーコンピュータ「京」がGraph500において8期連続で世界第1位を獲得</p> <p>● 香川大学と富士通、障がい理解の促進や特別支援教育の専門性向上にVRやテレプレゼンスなどを活用する実証研究を開始</p> <p>● 国際体操連盟、富士通の採点支援システムの採用を決定</p> <p>● 通信装置のソフトウェア対策、ITU-T国際標準制定</p> <p>● ゆうちょ銀行様の投資信託口座開設業務の効率化をRPAなどにより実現</p> <p>● AIを活用した働き方改革を実現する「Zinrai for 365 Dashboard」を販売開始</p> <p>● 世界初! 5Gの同時複数通信を1枚のアンテナパネルで実現</p> <p>12月 ● 「高知県園芸品生産予測システム」を開発し、AIで生産量を予測する共同実証を開始</p> <p>● アフラック様の「即時支払いサービス」にセキュアなオンライン認証サービスを導入</p> <p>● 人間行動シミュレーションから混雑原因を短時間で発見する技術を開発</p> <p>● 8,192ビット規模に拡張した組合せ最適化問題を高速に解く「デジタルアニーラ」サービスを提供開始</p>
'19年	<p>1月 ● 「液浸冷却システム」が平成30年度省エネ大賞資源エネルギー庁長官賞を受賞</p> <p>● 富士通グループ、CDPの「気候変動」の調査で2年連続の最高評価を獲得</p> <p>2月 ● 米FORTUNE誌「世界で最も賞賛される企業」に選出</p> <p>3月 ● 第一交通と富士通、地域公共交通活性化に向け協業</p> <p>● 働き方改革に向けて職員の業務効率化におけるRPAとAIの有効性を共同で実証</p> <p>● 国内初 Microsoft Azureパートナー認定の最高位「Azure Expert MSP」を取得</p> <p>● 松山市と富士通、RPA・AI活用などによる業務効率化に向けた連携協力協定を締結</p>	<p>1月 ● 次世代アーキテクチャー「デジタルアニーラ」普及に向け「Topcoder」を活用した技術者コンテストを開催</p> <p>● AIで外国人旅行者の潜在ニーズを探り、最適なプランをレコメンドする実証実験を開始</p> <p>● サイバー攻撃への対処要否を判断するAI技術を開発</p> <p>● インドネシア 北スマトラ州で「総合防災情報システム」が稼働</p> <p>● 大日本印刷が、情報銀行普及に向けて安心・安全に情報管理可能なプラットフォームを開発・提供</p> <p>● 電力の需要家間取引システムをブロックチェーン上で実現</p> <p>2月 ● 糖尿病治療における経口血糖降下薬の処方最適化に関するAIによる学習モデル構築の共同研究開発に着手</p> <p>● 健康医療情報管理基盤「Healthcare Personal service Platform」を提供開始</p> <p>● 東京大学情報基盤センター様から大規模超並列スーパーコンピュータシステムを受注</p> <p>● 東京駅エキナカ店舗でのロボットによる実演商品プロモーションの共同実証実験開始について</p> <p>● 外国人留学生の日本語講座の受講履歴や成績証明管理にブロックチェーンを活用する実証実験を開始</p> <p>3月 ● 富士通とみずほ銀行、請求支払業務電子化・売掛金消込自動化サービスの共同開発完了について</p> <p>● 熊本城における、崩落前の石垣石材位置を特定する画像処理技術の実証実験を完了</p> <p>● ヤマハ発動機と富士通がIoTを活用したセーリング470級の帆走性能向上に向けた実証実験を開始</p> <p>● 妊産婦のエコー画像などを「母子健康手帳アプリ」で手軽に確認できる「妊婦健診 結果参照サービス」を産科医療機関に提供開始</p>

事業展開	製品展開
<p>4月 ● 当社のリアルタイム映像伝送技術が2018年「エミー賞」を受賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本陸連と富士通「JAAF RunLink」におけるICTパートナー契約を締結</li> <li>● 持続可能な食材を社員食堂に継続導入</li> <li>● 富士通とSAPジャパン、SAP標準システムを機能拡張・補完するクラウドサービス開発・提供に向けた協業を開始</li> <li>● 「攻めのIT経営銘柄2019」に選定</li> <li>● 「第9期富士通グループ環境行動計画」を策定</li> </ul> <p>5月 ● ドームと富士通、スポーツのデジタルビジネス分野で協業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 富士通と米Autonomic、先進的なモビリティサービス提供に向け協業を開始</li> </ul>	<p>3月 ● AIの安心・安全な利用に向けた「富士通グループAIコミットメント」を策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ベネッセ・キャリアと富士通、大学IR支援のサービス提供をスタート</li> <li>● 埼玉県様におけるRPAツールの本導入を支援</li> <li>● 世界初！韓国の全国内線空港にて手のひら静脈認証による搭乗者確認の運用開始</li> </ul> <p>4月 ● 世界最高速を達成！ディーブラーニングの高速化技術を開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● シンガポール海事港湾庁とAIを活用した船舶の衝突リスク予測技術の効果を検証</li> <li>● PCサーバ「PRIMERGY」の新モデルを販売開始</li> <li>● 安心・安全な供給を支えるジビエ商品管理システムが長野市様で稼働</li> <li>● ポスト「京」の製造を開始</li> <li>● 北海道神恵内村で、IoTを活用したウニ・ナマコ陸上養殖の実証試験を開始</li> <li>● ネットトヨタ瀬戸内と富士通、遊休車両を活用した従業員向け乗合通勤サービスの運用を開始</li> <li>● 自治体向けRPAソリューション「Axelute for IC21」を提供開始</li> <li>● 官民データ活用を促進する標準インターフェース「NGSI」による4社のプラットフォームの相互接続実証に成功</li> </ul> <p>5月 ● 垂直統合型基盤「PRIMEFLEX for Microsoft Azure Stack」を販売開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 時系列データのAI利用を加速させる自動ラベル付け技術を開発</li> <li>● 富士通と電通、パーソナルデータを活用した新しいライフスタイルを提案するライフデザインの検討を開始</li> <li>● AIでお客様の業務変革を実現する「Zinrai」のソリューション2種を販売開始</li> <li>● 目的志向型ビジネスを実現するプロセス&amp;フレームワーク「Design the Trusted Future by Data x AI」を策定</li> <li>● 総二階建ての旅客機エアバスA380型機「FLYING HONU」にてヒアラブル端末の導入</li> </ul> <p>6月 ● 富士通とKongsberg Digital、温室効果ガス排出低減に向けAIを活用した燃料最適化サービスを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 音をからだで感じるユーザインタフェース「Ontena」イベント支援サービスを提供</li> <li>● 「Fujitsu Retail Solution Dassen boutique シェアリングアプリ」を販売開始</li> <li>● スーパーコンピュータ「京」がGraph500において9期連続で世界1位を獲得</li> </ul>